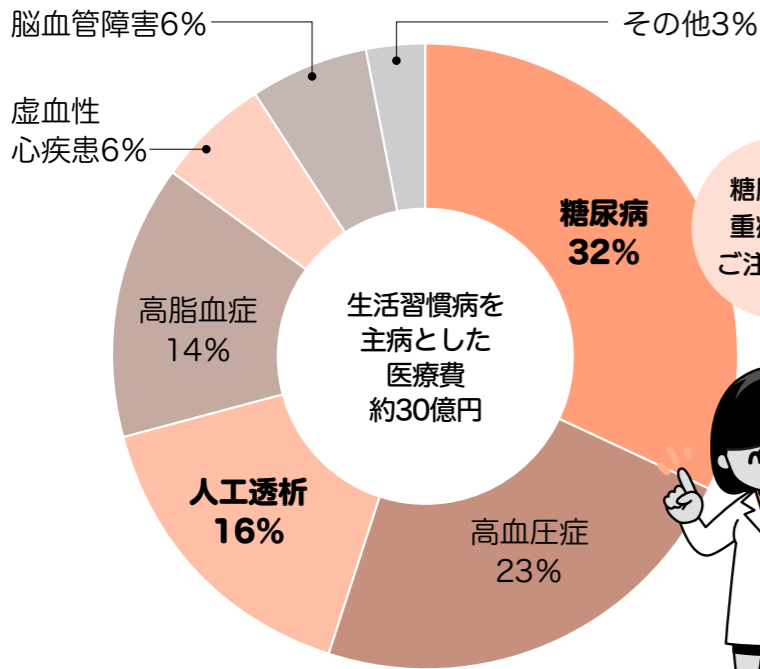


3

生活習慣病の医療費 (新生物は除く)

■ がん以外の生活習慣病の医療費 (%)



糖尿病の重症化にご注意を!



糖尿病と人工透析を合わせると48%に

がん以外の生活習慣病の医療費の順位は前年度と全く同じとなりました。上から糖尿病が32%、高血圧症が23%、人工透析が16%となっています。人工透析は糖尿病との関連が高く、2つを合わせると48%で約半分を占めています。

生活習慣病は初期には自覚症状があまりなく、受診するときは残念ながら症状がかなり進んだケースが多く見られます。放置せずに、早期の段階で食事や運動など生活習慣を改善することが大切です。

とくに、電設健保では全健保平均より糖尿病の患者さんが多くなっています。そのため、健診結果を分析し、糖尿病が疑われる人に早期受診をお願いする『お知らせ』をお送りしています。お手元に届きましたら早めに受診してください。

4

傷病手当金と医療費から見る「メンタル系疾患」の動向

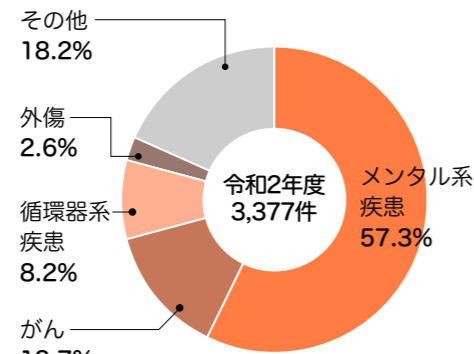
傷病手当金の約6割はメンタル系疾患です

傷病手当金とは、病気で長期間働けなくなった人への現金給付です。件数は3,377件で前年度より368件(12.2%)増加しました。

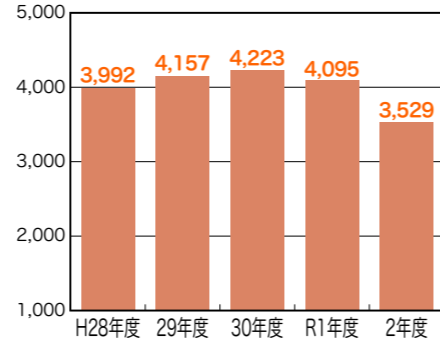
ここ数年、とくに「メンタル系疾患」によるものが増えており、令和2年度は全体の約6割が該当しました。

心の健康も、早期発見・早期治療がポイントです。悩みは一人で抱え込まず、誰かに相談してみましょう。

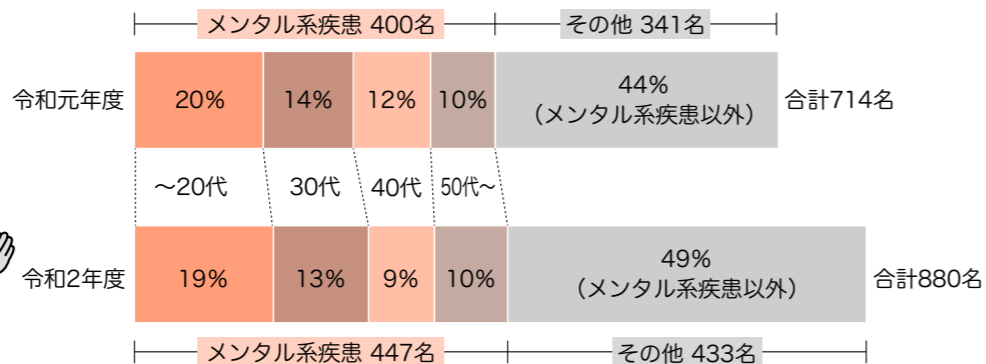
■ 疾患別傷病手当金件数割合 (%)



■ メンタル系疾患 1人当たり推移 (円)



■ 令和元年度、令和2年度の傷病手当金内訳 (人数)



次ページに年代別のメンタルヘルス対策のヒントを掲載しています



令和2年度 (令和2年3月~令和3年2月診療分)

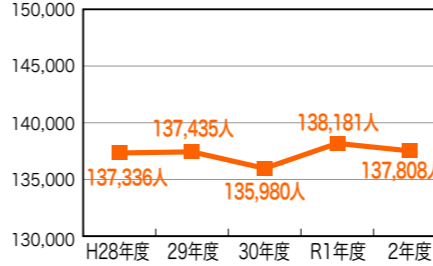
『疾病統計』まとまる

コロナ禍による受診控えの影響で「1人当たり保険給付費」が減少するとともに、総医療費は前年度比11億円(△5.4%)減少の193億円となりました。

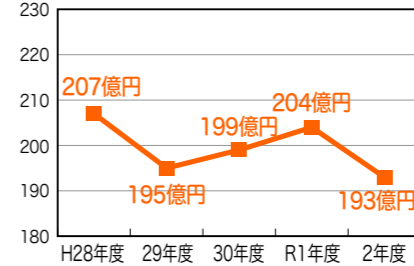
1

疾病統計の基本情報

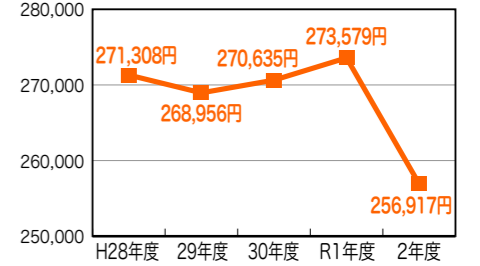
■ 加入者数 (人)



■ 総医療費 (億円)



■ 1人当たり保険給付費 (円)



1人当たり保険給付費は256,917円(△16,662円)

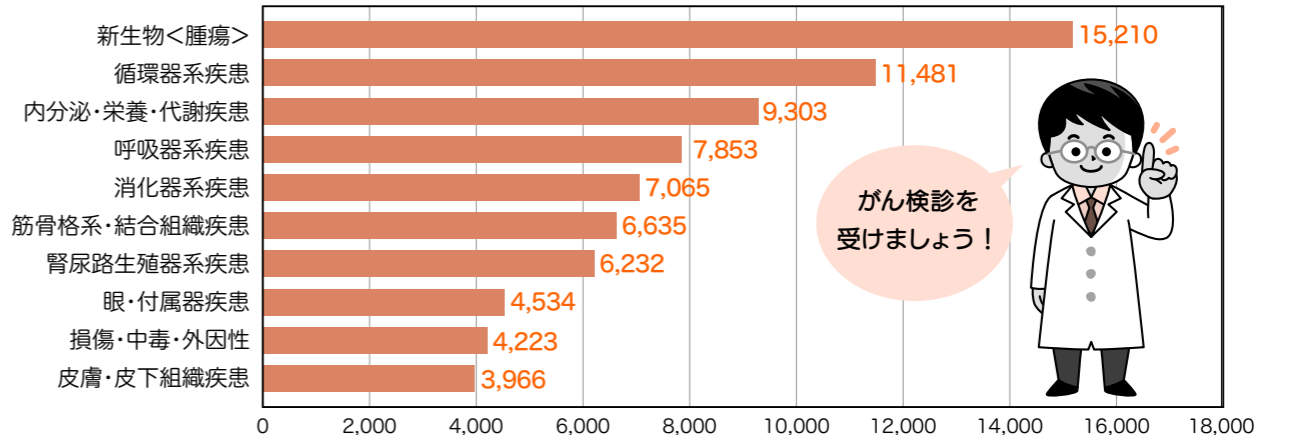
令和2年度は加入者数が137,808人(前年度比△373人)、1人当たり保険給付費は256,917円(△16,662円)となりました。新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年春頃の受診控えが顕著だったことや、インフルエンザの流行がなかったことなどから、異例の医療費減少となり、総医療費は11億円減の193億円となりました。

※平成29年度の総医療費が大きく減少しているのは28年度に事業所の脱退があったためです。

2

疾患別の1人当たり医療費

■ 疾患別の1人当たり医療費 (円)



がん検診を受けましょう!



「新生物」が1位。「呼吸器系疾患」は減少

がんなどの「新生物<腫瘍>」が今期も1位を占めました。例年2位の「呼吸器系」はお子さんなど被扶養者の方に多い病気ですが、手洗いの励行や受診控えの影響で4位に下がりました。その他の順位はほぼ例年どおりでした。

がんの部位別の順位では、「消化器」が37%で1位、「乳房」が21%で2位、「呼吸器・胸腔内臓器」が15%で3位となりました。コロナ禍でもがん検診を欠かさず受けることが大切です。

■ がんの部位別の順位 (%)

